

子どもがまんなかの社会の実現をめざして

こころのねっこ

* cocoro no nekkko * Vol. 4



こころのねっこ
次号も
おたのしみに！



● この冊子・私立幼稚園に関するお問い合わせ

公益社団法人 京都府私立幼稚園連盟 親子関係研究所

〒600-8424 京都市下京区室町通り高辻上る山王町561番地 京都私学会館内

TEL: (075) 344-0771 FAX: (075) 344-4177 HP: www.kyoshiyoh.com/renmei/

発行日／2020年5月

京都府私立幼稚園連盟

検索



モバイルサイトは
こちらから



京都の私立幼稚園の子育て情報誌



こころのねっこを 育てよう。

子どもとの生活は、私たち大人に幸せをもたらしてくれます。

わが子の成長を前にすると心を揺さぶられたり、時には気を揉むこともあるかも知れません。子どもたちは一人ひとり違う個性をもち、

思考も行動も育ちのスピードも様々。春が来ると草木や花が芽吹くように、ひとまわり大きく成長します。お母さん、お父さんには、先々の心配をしないで、子どもと過ごす親子の「いま」を大切に。子どもたちが養分を蓄える「こころのねっこ」を、ともに育てていきたいと思います。

毎日がたからもの

子どもたちにとっては一日一日が貴重な成長の時間。家族や友だち、先生とのふれあいがかげがえのない宝物になります。

みちくさも 素直な時間

時には何もできなかったという日があっても、子どもとの時間を楽しめ、一日を無事に終えて夜静かに眠ることができれば、明日への一日につながります。

失敗しても大丈夫！

「いいお母さん」になりたいけれど、いいお母さんのものさしって誰がはかるのでしょうか？「ありのままの自分」で十分、背伸びすることはないのです。子どもと同じ年だけのお母さんでいいのです（お父さんもね）。

外に出かけよう

心に余裕がない時は誰でも内向きになります。そんな時は意識して外に出かけてみませんか。子どもと一緒に散歩をして外気浴すると、子どもがいろんな発見をしてくれます。それを共有してあげるだけでいいのです。

ありのままを 見守ろう

子どもにかけ言葉がみつからない時は、笑顔で見守ってあげることが大切。安心感に包まれると育つ力をもっています。

ひとりで 頑張らないで

幼稚園に行くと子育て仲間がいっぱい！わたしたち幼稚園も、子育てで生じる不安や悩みについて一緒に考えていきたいと思っています。

乳幼児期に 育てておきたいこと。

今、世界中で
幼児教育が
注目されています。

目に見えない力を育てる =非認知能力を育てる

想像力・創意工夫する力・探究心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・乗り越える力・粘り強さ…、これら目に見えない力を「非認知能力」といいます。逆に「認知能力」と呼ばれるものは読み書き、計算、知識など数値化できる、主に小学校以降の学習を通して育つ力です。「非認知能力」が基盤となって、その上に「認知能力」が積み重なって育つので、乳幼児期には目に見えない「非認知能力」を育てることが、非常に重要なのです。

乳幼児期は、ねっこを育てる重要な時期

子どもたちは一人ひとり、違うタネを持っています。早く芽が出る子どももいれば、時間がかかる子どももいます。うちの子は大丈夫？子育てはこれでいいの？といった親の不安に関わらず、子どもは自分のペースで成長していきます。焦って結果を求めるよりも、乳幼児期に大切なのは「目に見えない力」をじっくりと養うことです。意欲的に取り組む、相手を思いやる、感情をコントロールする…。子どもが幼い時期には、人間としての土台「こころのねっこ」を育むことが大切なのです。



認知能力とは…
IQや小学校以降の学力のように
「数値」に換算して
表すことができる能力

中学生

小学生

高校生

社会人

大学生

「ありのまま」愛された実感が、 困難を乗り越える力になる

子どもは身近な人に見守られたいと思っています。子どもが泣いたり呼びかけたりしたら、温かく応える。失敗したら頭ごなしに怒らず「大丈夫だよ」と励ます。不安そうな時は寄り添う。そんな関わりを心がけることが大切です。その積み重ねが「ありのままでいいんだ」という自己肯定感につながり、いろいろなことに「がんばってみよう」という前向きな力になるのです。

子どもの成長に合った 接し方をする

子どもたちの成長や発達、子ども自身が自由に遊ぶなかでこそ見ることができます。時には、大人優先になりがちな生活のペースや視点をちょっと変えて、お子さんが遊ぶ姿を客観的に観察してみてください。子どもの成長に気づくことで、一人ひとりにあった接し方が見えてきます。

親子の愛がやさしさを育む

子どもは親に見守り関わってもらうことで安心します。そのことが他者に心を開き、信頼できる素となります。大好きな人と肌をふれあわせたり、だっこしてほしいと思った時にだっこしてもらえた時の安心感や幸福感は、心を育む栄養になります。親子のふれあいをたっぷりと楽しんでください。その時間こそが将来につながるのです。



非認知能力とは…
数値化することができない
心の内面の力

乳幼児

いっしょにおおきく
いち・にいさんぽ

毎日のお買い物やお出かけ時のなげない散歩でさえも、お子さんにとっては、外の世界に興味をもち、知的好奇心をふくらませるいいきっかけになります。一緒に歩くお母さん、お父さんの言葉がけひとつで、かけがえのない経験や思い出が生まれることでしょう。散歩を通じてお子さんが大きく育つ、魔法の一言をかけてあげませんか。



道ばたのたんぽぽ

あ、たんぽぽ
咲いてるわ

- ▶一言発するだけで視点が揃い、視点の共有は価値観の共有です。
- ▶季節や形の変化を感じとる力や情緒が育ちます。



分かれ道・交差点

- ▶“〇〇君の家の前”“ここは車の多い道”等、事象の関連付けが身につきます。
- ▶あえていつもと違う道を選択することは自己制御を育みます。

※自己制御(セルフコントロール)
『非認知能力』の一つ。“いつもと一緒に”という安定した習慣を、自分を律して別の行動をとることも「自己制御力」です。



でんしん柱よーいドン

- ▶『走る』はすべての運動の基礎!
 - ▶ここからスタート、ゴールで止まる→これらすべて“自己制御”の運動
- ※子どもは突然走り出したり、勝手に曲がったりするので安全面はしっかり気を付けて!
(誰か一緒に走ってくれと安心です)



あー! 消防車!!
はしご車やね!

はたらく車

- ▶みんな大好きはたらく車!「好き」は観察眼、探求心の種
- ▶「今日は急いではらへんなあ」等、変化を見つけるのも思考の栄養。



太陽・月・星・ひこうきぐも



- ▶空は子どもと大人の視点が同じ一番の環境。
- ▶ふれられないからこそ、思考力や想像力豊かな会話になります。



公園での会話

- ▶公園内の自然環境を通して、さまざまな表現や想像力を育みます。
- ▶砂場や遊具を使うことで他のお友だちと共有し、ゆずりあう心も育てます。



▶ 番号表記と行先は、バス好き子の格好の教材。数字と行先から秩序性や規則性、表記からは文字や数字を獲得します。

▶ 未就園の小さな子どもにとっては、モノと名前が一致する生活の知識が身につきます。また、幼児にとっては名前と文字が一致し、文字を獲得する絶好の機会となります。それを、先生ではなく“親と一緒に”に“楽しみながら”できることがポイント。子どもは“大人のマネ”も“頼まれる”ことも大好きなので、「〇〇作るから△△とってきて」と頼んでみては?楽しみながら、これからの時代に必要な生きる学力が養われます。

親子のさんぽのポイント

子どものアンテナと大人のアンテナのチャンネルを合わせてみよう

子どもの目線は大人より低く、たくさんのモノを捕えます。子どもの立場で共感してみましょう。“親子で同じ景色を同じように見ている体験”は、同じ価値観の共有という、人格形成において非常に貴重な時間となります。



思っていることや気付いたことを、声に出して呟いてみよう

「今日は暖かいな、もう春かな」等、大人の何気ないつぶやきも、言葉にすれば子どもはキャッチし、それが刺激となって語彙表現の豊かさ、情緒や審美眼等、さまざまな力に繋がります。



“親子でお散歩している”という時間こそが貴重特に乳児～幼児にとって、“生活の場”と“親子の時間”はとても重要です。生活の場は学力の基礎、親子の時間は価値観等、人格形成の基礎を養う場です。幼稚園の先生と、ではなく親と子の少人数で、言葉や視線のやり取りを直接行うことに、親子散歩の意味があるのです。



わかっていても全部はムリ~と思ってるあなたに!

最大のポイント!

「こんなんしたら1日何時間あっても足りないわ!」と思ったあなた! その通りです。すべてをこなしていたら日が暮れても足りません。大人の予定、都合に合わせることで、大事な社会勉強です。日常の範囲で“気張らないこと”が長続きの条件です。できる範囲で、でも“大切なんだ”という意識は頭のどこかに入れておいて、お子さんとの散歩を楽しんでみてください。





こころのねっこ★ママの座談会
「うちの子、よその子、子育てのこと。
いろいろ聞いてみたいっ!」

うちの子は順調に成長してる?今のままで
大丈夫?そんなママたちの本音トーク。



幼稚園の入園前と比べて
おさんは変わりましたか?

ひろみ 幼稚園に通いだしてから全然、違いますね。

まみ うちもそうです。一人目が4月生まれで、私が幼稚園の先生だったので入園までにいろいろと教えたのですが、入園したら今までできなかったことがすぐできるようになって、私の頑張りは何だったんだらう?って(笑)だから二人目の時には気楽になりましたね。

ゆみ 入園前は、子どもと1対1でいることがしんどく感じることも。いろんな所でアドバイスを聞いたり、午前中に遊ばせて昼寝をさせたりしましたが2歳になると昼寝もしないし、遊びもダイナミックになって毎日ヘトヘト。(笑)それで、よし満3歳児保育だ!って入園させました。子どもの世界が広がるだけでなく親の想像と違ったり、できないことが見つかったり、これでOKなんだと!親の私のほうが気づかされている最中です。(笑)

まみ 1対1だと子どもも親もお互いしか見なくて親子の関係しかないけれど、幼稚園に入るといろんなことを吸収して子どもも成長するし、親子ともにお互い穏やかな関係でいられますね。



ひろみ 上の子は年少、下の子はプレ幼稚園から入園させました。お姉ちゃんのお友だちとかみんなが可愛がってくれるので、お休みの日は「今日は幼稚園ないの?」と言うくらい、すごく楽しいみたいです。



ひろみ
姉は年長、妹は昨年9月より満3歳児で母が卒業した幼稚園に通う。

ゆみ まだ小さいから預かり保育は大変かなと思いつつ、私が産休から仕事に復帰すると預かり保育にも行かせるようになりました。お迎えに行っても「まだ遊び足りない!」って感じですが、家に帰ったらぐっすり寝てくれるので、お互い時間の使い方が変わったと思います。

りょうこ 私は上の子が幼稚園に入る前の年にちょうど下の子を妊娠中ということもあって、上の子を遊ばせている時もしんどくてイライラすることが多かったんです。そのうえ幼稚園の親子教室に行っても1人だけ違うことをしてみんなと全然うまく遊べない。

だから入園前、幼稚園に提出する書類に、心配事を米粒みたいな字でめちゃくちゃ書いたんですよ。(笑)
まみ 多分、先生もお母さんのことをすごく心配されたと思いますよ。(笑)

りょうこ そんな感じで不安しかなかったんですけど、実際に入園すると先生が「ルールがない世界に私も毎日いますが、それもおもしろいですよ」と言ってくださって、新米ママとしてはすごく助けられて心が楽になりました。2時とか3時に保育が終わって、帰ってからも遊んだり一緒に過ごす時間があるのが良いですね。



りょうこ
兄と一緒に幼稚園へと願い、妹は2歳からプレ幼稚園に通い始める。

お子さんと一緒に
外遊びしていますか?

まみ 私のところは外ばかり行っていました。就園前は、朝から公園に行って午前中目一杯遊んでお昼寝をさせて、その間に家事みたいなルーティーンが毎日。



まみ
以前は私立幼稚園に勤めていたが、現在は休職して子育てに奮闘中。

ひろみ 女の子だけど踏切がすごく好きで嵐電を見に行くのが日課になっていました。(笑)

ゆみ 暑い日や寒い日に公園へ行くと誰もいなかったりして、夏休みなんかはどう過ごそうかと思えますね。動物園の年間パスポートを買ったりして、でも行き過ぎると子どもも飽きてくるんですね。(笑)

りょうこ 2歳の時はひたすら自転車に乗せて外に

行っていました。男の子は棒があれば武器にする。植物園に行くとどんぐりや木を絶対に投げる。そして自然に走りだす。(笑)

まみ 一歩でも家の外に出ることで子どもの気分が晴れて頭が回転するのか、自分でどんどん遊びに発展させていく。それが心の安定につながるんじゃないかしら。

りょうこ 玄関から一歩外に出ただけでアリを見つけたり、雨の日はバルコニーでシャボン玉をしたり、すごく狭い世界でも想像を巡らせますよね。

ゆみ うち男の子なので主人が小さい頃をしていた遊びを一緒にやっています。遊びに正解や目に見える成果はいらないと思います。葉っぱを拾って持ち帰る子もいれば、パッと捨ててしまう子もいるし。



ゆみ
去年の無償化より週2から週5保育に変更して、現在、パートで仕事中。

まみ 子育ては0歳から母親がメインでしているのですが、どうしてもお互い影響を受けやすいですし、環境って大事。外に出て同じ世代の母親とふれあってリフレッシュするとか、まず一歩を踏み出すことが親子の心のゆとりにつながると思います。幼稚園の園庭開放がきっかけで、けっこう仲良くなったりしますね。

ひろみ 幼稚園、小学校と上がっていくにつれて子どもと一緒に過ごす時間がどんどん少なくなってくるので、一緒にいられる間は、お互いに笑顔でいられるよう息抜きもしつつ楽しむのが一番だと思います。

ゆみ 母親として子どものことを考えるのは当然ですけど、子どもが幼稚園に行っているその間だけでもリフレッシュできる自分の時間を作ることができれば、子どもが帰ってきた時に笑顔でわが子と関われるのではないのでしょうか。

りょうこ 私はもうすぐ6年間の幼稚園生活が終わるんですけど、とにかく楽しかったんです。子どもと一緒に楽しむってなにより大切なんだと思いました。

※ 座談会とプロフィールは、2020年取材当時のものです。 10

毎日の遊びが学び!

ようちえんでのできごと

砂場でお山を作ったり、保育室がお店屋さんになったり、遊び方を自分たちで作ったり…。時には思い通りにいかなくて、意見がぶつかり合うことも。でも、みんなが知恵や想像力を働かせることで、友だちとならできる!自分もできる!といった自信が芽生え、育ちに繋がります!

遊びは学び—— 毎日の幼稚園でのできごとのなかにある、園児たちの成長の様子をご覧ください。

① 先生

できあがった?
みんなで遊ぼう!

② かるたをつくった人、集まって!私から読むから!

③ いいよ!

④ ※自分が作ったかるたを読む
ハイ!私から取った!やった
※当然一番早く取る

⑤ つぎ順番な

※自分が作ったかるたを読む。当然一番早く取る。この後、同じことを何人かが繰り返す…

⑥

自分のかるた読んだらあかんやん

※ゲームにならないと気付く



⑦ 先生

どうすれば面白くなるのかな?

※子どもたちの試行錯誤のあと、読み札を裏にして、順番にひいて読むことになりました

「わたしが読む!」

みんなでオリジナルかるたを作って遊ぼう!言葉を考え、それにあった絵を描き、オリジナルかるたの完成。できあがったかるたで、みんなで遊ぶことに…。

かるた遊びって…

子どもは絵本や紙芝居を通して、文字の世界を広げます。幼稚園生活でたくさんの文字と出会い、それを使って遊びを展開します。

絵を覗いてみよう

絵で伝えるということは、自分なりに整理ができている証拠。上手い下手ではなく、みんなで使うものという意識をもって作れば◎です。



「チャレンジ」



すごーい!

87, 88, 89...

目標は子どもを大きく伸ばす

行き先が決まればそこに向かうのと同じで、目標がなければそれを達成することはできません。大切なことは、子ども自身が目標を決めること。目標があれば子どもは全力で取り組みます。

「お客さんが来ない…よし!出張お蕎麦屋さん」

せっかくお蕎麦屋さんごっこをしていたのに、全然お客さんが来ない…よし、人がたくさん通るところでお蕎麦屋さんしよう!



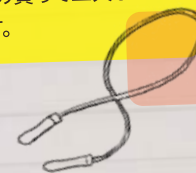
“遊びを楽しくするため”に考える

自分たちがやりたいことを自分たちで課題を見つけ、問題解決の為に考えて行動する。大人顔負けの経営判断です。

ダブルダッチでどれだけ跳べるか挑戦中!
2本の縄の動きを見ながら、なかに入るタイミングを計ってスタート!!

跳んでいなくても、遊んでいる!?

大縄跳びを見ながらタイミングを計ったり、数を数えたり、友だちを観察したりと気持ちが向かっていれば、待っている時間も遊んでいます。遊びの質って工夫ひとつで高まります。



おつりの準備をしてくちゃ

天ぷらと揚げください

はい、天ぷらと揚げですね

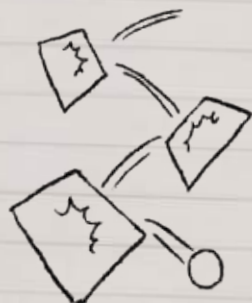
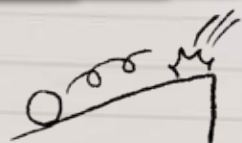


知識だけでない“これからの学力観”

単純作業がどんどんIT化する社会において、これから求められる学力の基礎はこういったやり取りから養われます。



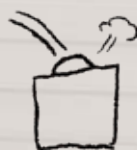
「より素敵な
『すべり台』を
目指して」



子どもは遊びの研究者
子どもにとって、遊び=楽しいものです。遊びのなかで仮説を立てたり、理想を追い求めながら遊びを充実させる方法を研究し、実践しているのです。

子どもの好奇心って

興味や関心、不思議に気づくことは“学びの原点”です。さあ、次はどんな行動に移すでしょう。子どもと一緒に“はてな”を考えられる大人って素敵ですね。



「もっともっと
高く!」

みんなで力を合わせ、ころを
ひとつにして高く積み上げるぞ!
でも、あわてない。あわてない。

役割って

複数で遊ぶ場合、役割が生まれます。子どもが上手く参加・遊べない時は自分の役割に迷っていることがあります。この遊びしたくないのかなと勝手に決めないで!!



この遊びのゴールって!?

遊びのゴールを勝手に決めていませんか。ゴールは遊び手が決めるもの。途中で崩れてもそこからの選択肢は無限です。判断は子どもにさせてあげましょう。

「一緒に
うれしいな!」



言葉だけが伝える
方法ではない

子どもたちは身振り手振り、表情、目があっただけで“伝わる”という経験をしています。心が繋がりがあうことで、自然と相手の思いに気づくのです。

「みーつけた!!」

子どもは色々な“連想”をします。連想は、遊びを深めたり、変化させる力をもっています。「みーつけた」とは言いませんが、いろんなことを頭の中で探し、見つけているのです。



大きな紙に絵の具を使って描くことを
楽しんでいます。思いを言葉に
しながら描いていたり、
絵の具のついた手を友達と
あわせたり思い思いに
楽しんでいる秋の園庭です。

おとうさん、おかあさん いっしょにおそぼうよ。

今、幼稚園ではこんな遊びを楽しんでいます。

時間を見つけて一緒にお子さんと遊んでみませんか。

遊びを通じて、子どもたちの“こころのねっこ”はぐんぐん育ちます。

使うリズムは(タン・タン・タン)の3拍打ちと
(タン・タン・タン・タン・タン・タン・タン)の7拍打ち。
幼稚園でよく歌われる曲で、楽しくリズム遊びをしましょう！

てを
たたきましょ

作詞：小林 純一
曲：不詳



かぶと作り

5月はかぶと、夏はスイカ、秋はかんむり
など、工夫をすれば何にでもなる「かぶと」
をご家庭でも作ってみましょう。



おすすめえほん



フルーツめしあがれ

作：視覚デザイン研究所
絵：高原美和
出版社：株式会社視覚デザイン研究所

写真以上のリアリティを持つ絵が、ページをめくるたびに、「おいしそう!」だけでなく、美しさや迫力など、沢山の情報を“視覚”を通して与えてくれます。また、それぞれの果物のイメージや、色彩にあったテーブルクロスコーディネートは、“料理は目で楽しむ”ことを体感させてくれます。文章も秀逸です。日本人にとって心地よい5・7・5で構成されており、音感を重視した文章や、効能を謳っている文章など、バリエーション豊かな文章が聞いていて実に心地よいです。「見て」「聞いて」楽しむ絵本は、乳幼児期にぴったりですね。理屈抜きで、子どもも親も同じ感覚で楽しめる絵本です。審美眼も養われるかも。

一人歩くオランウータンの子ども(ジョジョ)が、いろんな乗り物の親子と触れ合います。途中、車の親子と一緒にオマールを探しに出かけ、本当にさみしくなった時に風流と現れるお母さんの優しさや頼りがいといったら!読み終わるとお母さんもお子さんも、ぎゅっとしたくなること請け合いです



ぎゅつ

作・絵：ジェズ・オールバラ
出版社：徳間書店

一番の特徴は「文章の無い絵本」。絵本の中の文字は登場人物たち「ぎゅつ」だけ。でも、その「ぎゅつ」からはいろんなニュアンスの「ぎゅつ」が聞こえてきます。「ぎゅつ」がないページの主人公の表情も豊かで、文章がなくても物語は伝わってきます。その時その時の絵を見て、生まれてくる物語を、お子さんと一緒に言葉に変えて、紡いでみてください。

2019年10月より幼児教育の 無償化が実施されています！

幼稚園、認定こども園に通う
お子さんの保育料負担が軽くなります

【対象者・利用料】

幼稚園、認定こども園等を利用する
3歳から5歳児(小学校に就学するまで)の
全ての子どもたちの利用料が無償化されます。

幼稚園については、月額上限2.57万円まで無償になります。

幼稚園については入園できる時期に合わせて満3歳から
無償化(月額上限2.57万円)になります。通園送迎費、食材料
費、行事費などは、これまでどおり保護者の負担になります。

ただし、給食のある幼稚園で年収360万円未満相当世帯の
子供たちと全ての世帯の小学校3年生以下の兄弟から
数えて第3子以降の子供たちについては、副食(おかず・
おやつ等)の費用が免除されます。(市町村により実施の
有無があります)

0歳から2歳までの子供たちについては、
住民税非課税世帯を対象として
利用料が無償化されます。
(認定こども園のみ)

幼児教育・保育の
無償化概要については
内閣府HPをご覧ください



幼稚園の預かり保育

【対象者・利用料】

無償化の対象となるためには、
お住まいの市町村から
「保育の必要性の認定」を受ける必要があります。

※「保育の必要性の認定」の要件については、
就労等の要件(認可保育所の利用と同等の要件)が
ありますので、お住まいの市町村にご確認ください。

幼稚園の利用に加え、利用日数に応じて
最大月額1.13万円(1日上限450円)までの範囲で
預かり保育の利用料が無償化されます。
(保育の必要性の認定を受けた方)

※詳しくは各幼稚園にお問い合わせください。

あたたかいモノ



私の人生の中で子どもをもつことができて本当に良かったと、生まれたてのわが子を
初めて抱いた時に思いました…。そんなお話をしてくださる方がいました。

子育て真っ最中のお父さまお母さま、子どもたちがその家族にもたらせてくれるモノは
計り知れないくらい大きなものです。その大きなモノと一緒に楽しみ、大切に、
家族の宝物として育てていければ、きっと素敵な未来になると思います。

昨年10月より幼児教育の無償化が始まりました。このことは幼児教育の重要性が
認められたことに他ならないのです。ではなぜ幼児教育が無償化になったのでしょうか。
それは人間が人間らしい営みを社会の中で発揮し、
今の子ども達が未来を生き抜いていってほしいという願いから実施されました。

今後の社会生活では、AIやIoTなどがますます発達するといわれています。
2040年。20年後には今ある職業の半分がなくなり、今はない新たな職業に
就くことになるといわれています。まさしく今の子どもたちが社会に出て
活躍し始めるころです。では、今の子どもたちがそのような未来を生き抜いていくためには、
どのような力が必要なのでしょう。それはAIにはできない何かを生み出すこと、
創造力・想像力・人の気持ちに寄り添うこと・人を育てること・思いやる心・
やり抜く力など、まさしく生まれてから小学校就学頃までに体験し、経験する
たくさんの目に見えない力であるといわれています。あたたかい家庭生活の中で、
お父さまやお母さまのあふれる愛情をたっぷり
子どもたちに注ぐことこそが子どもたちの「こころのねこ」を育てるのです。

子育ては 育てるつもりが育てられ 大変な時が大切な時
～京都の私立幼稚園は子どもと向き合うご家庭を支えます～

(公社)京都府私立幼稚園連盟